

例会：『河原町ルヴォワール』

・作者

円居挽 (Van Madoy)

1983年、奈良県生まれ。京都大学推理小説研究会出身。

2009年『丸太町ルヴォワール』で長編デビュー。

・著書

丸太町ルヴォワール (講談社 BOX・講談社文庫)

烏丸ルヴォワール (講談社 BOX・講談社文庫)

今出川ルヴォワール (講談社 BOX・講談社文庫)

河原町ルヴォワール (講談社 BOX)

クローバー・リーフをもう一杯 今宵、謎解きバー「三号館」へ (角川書店)

シャーロック・ノートー学園裁判と密室の謎一 (新潮文庫 nex)

キングレオの冒険 (予定)

※以下ルヴォワールシリーズ四作の内容に触れています。

・作風

何が正しいのか、ではなく、何をどうすれば正しく見えるのか？

ルヴォワールシリーズでは、(ある視点からの) 関係性が見かけ上先に提示されるが、それは読者が推定するだろう人物間の関係、状況とは一致するとは限らない。

(これは必ずしも叙述トリックとは同値ではない)

同じ主題 (トリック) を反復させる。叙述ルールは割に厳守する。

・シリーズ

以下、各作品について述べるが、膨大になると思われるので、伏線に関係のない部分は推理小説に関係あるなしにかかわらず小ネタを拾えない場合があります。

(だいたい山田風太郎か麻雀関係)

例によってメモ書きのような形式になるが勘弁して頂きたい。

一、『丸太町ルヴォワール』(Who?)

一章は論語の語りである。視覚に関する記述なし。

トポロジー的には服がいくらでも伸びるという仮定のもとに服は脱げる。

相似系の提示。

文庫 P21 で明白に聞き手がいることが示される。

マグカップに触る前に「あれ？ 欠けてますね？」

対子系家系。

スッタンは意外に和了できる。

雲なす証言（ウィムジー）

「同じことですよ！」

双龍会（シュワンロンフィー）は 11223355778899。一色だと中国麻雀で 64 点役（役満級）

アナグラム時の少考は達也に考えさせるための少考か。

撫子の「手癖が悪い」ことが保証される。

幻の女、ルージュは（物語中に登場している中の）誰か？

引用であることで成立するトリック

二人とも和装である。

準備が良すぎるのが分からせた上で引掛け問題にわざわざ引っかかる。

「柳眉」は美人の眉のことであるが「美人」は古くは男性のこともさしたので云々。

達也が嗤った。（これでこうだとそうなる）

最後の一撃。revoir

二、『烏丸ルヴォワール』（When?）

作品中、年代を示す記述少なし。

潜入捜査からはしごを外す。

結構な違和感。

信頼できない依頼人その 2 扱う事件はわりに小さい。

別人であることを読者にアピールするための会話の配置「さっき山月に会ったよ」

任意車が得意、というより、「今聞いたばかりの声」が出せることが保証される。

黄昏卿の存在 ノーブルスルース

双鴉の計/又鴉の計/乱鴉の計など。

(備考：アリスもカラスも麻雀の役である。ただし和了役ではない。) 登場人物を書き分ける必要がないし、書き分けては成立しないネタ。二章ラストでは読者にはっきり違和感があるはず。

火帝をときめかせればよろしい。(ユデなんとか)

『夜は千の目を持つ』はウィリアム・アイリッシュで、『夜は千の鈴を鳴らす』は島田荘司。プロバビリティの殺人応用編。

現在“どういうことになっている”のか？

Double,double,double.

二つのポルシェ 二つの(黒い)トランク 二つのクロークルーム 探偵のオウンケースについて。

ペンリーのロン和了は役満ではないが三万点は返さなければならない、という話。

三、『今出川ルヴォワール』(How?)

今回は時間も場所も人名もだいたい確定している。

山を買わせる詐欺の事件。

今日の本

天窓があることを送り火に関する論証によって示した。

ヘンリーは犬の名前。

大車輪は 22334455667788p (メンチンタンピンリャンペーコー=三倍満)

京都市眺望景観創生条例(送り火への眺めが変わらないようにするなどの規制)

二章のラストに落雷で停電が起こる。

鳳(回り親) 10点=1000万円。

状況はブリッジ+麻雀(+ブラックジャック(+バカラ))だと思えば良い。

プレイングについて。

「燃え上がる大の文字」(左大文字は一画加えて「天」とした時代もある)

引用と逆用と転用。

囿の大取は相似の相似。

次(ラスト)は河原町。

四、『河原町ルヴォワール』(Where?)

御所を一周してきた物語は御所で終わる。

レイモンド・チャンドラーとエラリー・クイーン。

おそらく最も短い。(烏丸>今出川>丸太町>河原町)

叙述トリックの被害者。

11123455678899m→11223355778899m

前三作で一章に当たるのは前三作。

あるべき状況とノックスマンの提示。

各種の回想と陰謀。前フリが(都合上)短い。

「まあ、どちらにせよ同じこと……」

『丸太町ルヴォワール』の三人称の地の文において慈恩が死んだという記述はない。

ギャンビット。

『臥虎藏龍』Crouching Tiger, Hidden Dragon (映画化) グリーン・デスティニー (邦題)

外見の下で何か別のことが起きていること、のたとえ。

今回は時間も場所も人名もだいたい確定している(ようにも見える)。

この人物をこの作者は殺さないだろうという予測は可能。

半年間の出来事。

ほかにも伏線があることがほのめかされてはいるがひとまず終了。

【参考】KYOTOdesign <http://kyoto-design.jp/special/obon> 他多数

memo